

## オープンソースソフトウェア GT.M Ver5.4 2010

澤田 潔<sup>1</sup> CAMTA-JP<sup>1</sup>

はじめに

GT.M(Greystone Technology MUMPS)は、AGPL3 に準拠した OSS である。ANSI/ISO/JIS 国際標準 M 言語で、64bit Linux プラットフォーム対応、ACID トランザクションをフルサポート、Unicode 対応などの特徴を持つハイパフォーマンスな M テクノロジー・データベース・エンジンである。

GT.M の近況

GT.M プロダクトは「Rock Solid. Lightning Fast. Secure. No compromises.」なるキャッチコピーの元、2010 年 2 月にメジャーバージョンである Ver5.4 がリリースされた。(最新版 V5.4-001 2010/07/30)

一方、GT.M と SQL(JDBC)とのインターフェース・ソリューションである PIP は、2010 年 4 月に V0.2 がリリースされた。

本稿では、GT.M Ver5.4 と、実験的で挑戦的な Ver0.1 から改良された PIP Ver0.2 について概要を解説する。

GT.M Ver5.4 リリース概要

トリガ(Trigger)は、Ver5.4 で追加された最大の機能である。トリガは特定のグローバル・ノードにマッチする更新が発生した場合、あらかじめ定義されたアクションを自動実行しその応答を返す。一般的な RDB では、トリガ関数(PL/sql)、手続き型呼び出しなどと呼ばれている機能と同等である。今後 PIP にて SQL ライクな問い合わせに対

応するための重要な機能追加であるとともに、定型的な処理においてコード記述量を少なくすることが期待できる。

Ver5.4 では、他にソケット通信モジュールの改良や 64bit 版バイナリー配布などのアナウンスされている。

PIP Ver 0.2 の概要

PIP は従来、F.I.S 社の FIS Profile™ 銀行向けリアルタイム・コア処理システムの商用ベースのインフラであった。Ver0.2 から FIS Profile™ はプロファイルのコードベースから分離され、より GPL ライクなソフトウェアとして生まれ変わった。

日本における GT.M コミュニティ活動

筆者は GT.M 研究会(Google Group)にて GT.M およびその周辺技術についてコミュニティ活動を行っている。現在、GT.M 研究会にて GT.M プログラマーズガイドと GT.M 管理および操作ガイドの翻訳に注力している。翻訳作業の協力者を募集している。

参考文献(URL)

1. GT.M Database Engine with Extreme Scalability and Robustness.<http://www.fisglobal.com/Products/Technology/Platforms/GTM/index.htm>
2. GT.M 研究会 <http://groups.google.com/group/GTMstudy/>